

沖縄・辺野古 米軍新基地建設

沖縄県名護市・辺野古への米軍新基地建設に向け、岸田政権は今年に入り、軟弱地盤の広がる大浦湾の地盤改良工事を強行しています。

埋め立て強行は 今すぐ中止を！



地方自治じゅうりん

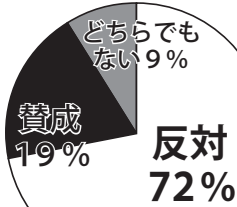
民意無視

環境破壊

ぜんぶ
止めよう！

新たな要塞建設

新基地建設のための
埋め立てに



(19/2/24 沖縄県民投票)

辺野古の新基地建設工事は、この間の知事選挙や県民投票で表明された、基地建設反対の民意を踏みにじるものです。

国は昨年末、基地建設に反対する玉城デニー沖縄県知事の権限を取り上げ、大浦湾の埋立工事に必要な「設計変更の申請」を知事に代わって承認する「代執行」を行いました。国が地方自治体の権限を奪う「代執行」は初めての例で、工事はこれに基づくものです。

完成見通せない計画に2.5兆円



予定地に広がる水深90mの軟弱地盤を改良する技術はなく、活断層による崩壊の危険も指摘されています。民意に背き、環境を破壊し、完成の見込みもない無謀な計画に2.5兆円もの血税を注ぐのは、今すぐやめるべきです。

「危険性除去」は基地撤去でこそ

国は、辺野古の新基地建設は「世界一危険」と言われる宜野湾市・普天間基地の「移設」のためだと説明しています。しかし新基地は耐用年数100年、普天間基地になかった新機能を加え、事故を繰り返すオスプレイを有事には100機展開する、一大要塞化計画です。

普天間基地の危険性除去は、普天間基地の運用停止と撤去でこそ実現できます。国はそのために米国と交渉すべきです。

「辺野古新基地建設工事の中止と普天間基地の無条件撤去を求める請願」署名にご協力を！

日本平和委員会

2024年2月発行

一人ひとりの平和の願いをもとに行動する平和NGOです
「平和新聞」(旬刊)、「平和運動」(月刊) 発行中

<http://j-peace.org/> (t) (f)



大阪平和委員会

大阪市中央区区谷町 7-3-4 新谷町第三ビル 210 号

Tel.06-6765-2840 <https://www.osk-heiwa.org/>

辺野古新基地建設工事の中止と 普天間基地の無条件撤去を求める請願

衆議院議長 様
参議院議長 様

【紹介議員】

請 願 趣 旨

防衛省・沖縄防衛局は、再三にわたって示された沖縄県民の辺野古新基地ノーの民意を無視し、辺野古側の浅瀬での工事を進め、「進展」を演出していますが、最近、工事の本格化を阻む重大な問題が明らかになりました。

第1は、防衛局が開示した報告書により、水深のある大浦湾側の護岸設置予定の海底が深さ40メートルにわたってマヨネーズ状の粘土質の軟弱地盤になっており、地盤改良など工法変更なしには工事は不可能な状態にあることです。地盤改良工事は長い年月と莫大な費用を要し、計り知れない環境破壊をもたらします。また、基地予定地に活断層があると専門家が明言しており、きわめて無謀な計画です。

第2は、新基地滑走路予定地周辺に、日本の航空法や、米軍の基準をも超える建造物が多く存在していることです。米軍の基準では滑走路の中心から半径2286メートルの高さ制限は標高55.7メートルとなっていますが、この範囲に高さ制限を超える沖縄国立高等専門学校、久辺小・中学校、沖縄電力送電鉄塔などがあります。防衛局は沖縄電力などとは2年前から移設等の交渉を行う一方、国立高専などは放置して工事を進めています。

このほかにも、基地予定地に生息している絶滅危惧種のオキナワハマサングの移植を知事が許可しない中で工事を強行しているなど、問題が山積しています。

一方、米軍普天間基地所属の軍用機による、墜落、炎上、部品や窓枠落下などの事故が2016年以来絶え間なく繰り返されています。住民の生命と生活、子どもたちの安全と教育活動を守るために、普天間基地の運用停止と撤去は一刻も放置できない状態です。

以上により、私たちは下記事項の実現を強く求めます。

請 願 項 目

1. 辺野古新基地建設工事は中止すること。
2. 政府が約束した普天間基地の運用停止と撤去を行うための対米交渉を行うこと。

氏 名	住 所

取り扱い団体 **大阪平和委員会**

【送付先】 安保破壊中央実行委員会 〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町 2-11-13 MMビルⅡ 502